

ひんからかわらばん

第9号
発行 2017年10月24日
九州教区
東日本大震災対策小委員会



カイロスを生きる

荒尾教会主任担任教師／東日本大震災対策小委員会委員長

佐藤 真史 さん

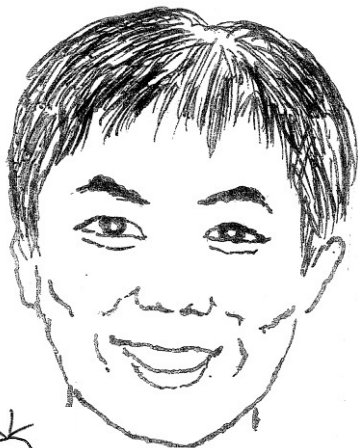
「3・11は私たちにとって『カイロス』だった」

2012年春に仙台に赴任し、はじめて出席した宮城北地区の牧師会で聴いた言葉です。

ギリシャ語で「時」を表す言葉として「カイロス」と「クロノス」がありますが、この「カイロス」は「何ものにも代えがたい決定的な時」を意味します。つまり、「3・11は私たちに何ものにも代えがたい決定的な時だった」と、その牧師は言われたのです。しかし、正直なところ、私には何を言われているのかよく分かりませんでした。

以来5年間、被災者支援センター

形ではなく、現在進行



佐藤真史委員長
似ているかどうかは本人に
会ってお確かめください



形として、いまもあり続けていることに気付かされる日々でした。

私はこの春、熊本・荒尾に転任しました。東北からはるか遠く離れ、暮らしてみると、まったく情報が入ってこないことに気付かされます。

3・11被災地が話題に上ることも、ほとんどありません。しかし、いまもこの九州に1775名(9月14日復興庁)もの方たちが東北から避難が続いています。避難生活を余儀なくされている方たち、放射能汚染の中で生きる子どもたち、移転先で孤立している方たち。カイロスはカ

イロスとして今もあることを忘れてはいけないと、自分に言い聞かせています。

九州に来てからも自分の出来ることを願って、東日本大震災対策小委員会に入れさせていただきました。燃えている森に口ばしで水を運ぶ「ハチドリ」のひとしずくを、皆さんと共に集めていきたく願っています。



「日本基督教団

国際青年会議 3 京都」

報告

新堀真之さん(香椎教会)

3月28日(火)～31日(金)、京都の関西セミナーハウスを会場に、標記のプログラムが行われました。その名の通り、日本はもとより世界の各地から100名を超える「青年たち」が集い、「エネルギー持続可能社会の実現を目指して」というテーマのもとに豊かな場が持たれました。九州からは、プログラムの中で大活躍をした日下部詩恵さん(川内教会)と、もはや「青年」という枠で括られるには申し訳な

い新堀が参加しました。詳細な報告は、既に各教会に配布されている『報告書』をご覧ください。思います。

忘れられない出会いがありました。それは現在、中部地方で牧会をされる一人の教師との出会いです。その方はずっと、九州教区の教師研修会でも震災の報告をして下さった方で、震災直後の支援活動を中心に担われた方でもあります。2日目と3日目の夜に数人で語り合っていた時のこと。その方は涙を流しながら現在の思いを語られました。聴けば震災後、混乱の中でも支援のために必死に走り続けたその方は、疲れや、何よりも放射能の脅威の中で、家族を思い、あえて東北の地を離れるという決断をされました。それから5年。しかし彼の心には、「被災の地を離れたこと」への自責や、その地に残った仲間たちへの思いが重くのしかかり続けたのだといえます。「あの時、東北を離れた自分か?」、この会議に参加していいのだろうか?、「もしかしたら他の道もあつたのではないか?」。その場にいた誰もが声を詰まらせました。誠実に、懸命に困難の中を駆け抜け

た一人の同労者に、そのような思い

を抱かせてしまう現実。それが、原

発事故の一つの実態でもあるのだ

と、改めて気づかされます。あの時

の彼の沈黙、言葉、涙を、絶対に忘

れてはならないと思うのです。

それぞれに思いや苦悩を抱えて

集った参加者たち。以下は、そんな

彼女ら・彼らが紡ぎ出したステート

メントの一部です。日本、そして世

界の各地に、熱い思いをもって主に

従い、未来への展望を抱く「青年た

ち」がいることを知り、多くの励ま

しを与えられたプログラムでした。

1. わたしたちは、教派を超えて

定期的に集まり、聖書に示されたイ

エス・キリストの福音によって新た

にされ、世界へと派遣されていきま

す。

2. わたしたちは、日々の生活の

中で、エネルギー資源を含む様々な

資源消費量を削減することに努め

ます。

3. わたしたちは、苦しむ人びと

と出会い、声に耳を傾け、苦しみに

寄り添い、ともに生きます。

4. わたしたちは、避難者を受け

入れ、共に食卓を囲みます。立場や

伝統の違いを尊重します。

5. わたしたちは、事実を見極め、

メディア・リテラシーを高めます。

6. わたしたちは、正確な情報を

集め、発信します。

7. わたしたちは、それぞれの教

会で、説教や議論を通して、再生可

能エネルギーの活用やオフグリッ

ドの重要性を語ります。

8. わたしたちは、オフグリッド

を実現するモデルチャーターを作る

ために、議論を深め、取り組みます。

9. わたしたちは、オンライン会

議を活用し、話し合います。

10. わたしたちは、原発を支える

経済至上主義と差別構造に反対し、

その代替となる新しい価値観を模

索し、それに従って生きて

いくことに努めます。

支援活動かろう

◆今期の東日本大震災対策小委員会
の委員は次の3名です。

佐藤眞史 (委員長 荒尾教区)

西岡裕芳 (書記 福岡警固教会)

新堀眞之 (会計 香椎教会)

◆2016年度の主な活動について

ご報告します。

〔被災教区直接支援〕

東北教区被災者支援センター「エマ

オ」のスタッフ研修のため20万円。

東北教区放射能問題支援対策室「い

ずみ」に 10万円。

会津放射能情報センターに 10万円。

奥羽教区内に 10万円。

〔東日本大震災報告集会〕

セクシユアル・ハラスメント対策特

設委員会と合同で行いました。

日時：2017年3月13日

場所：九州キリスト教会館

主題：でも、そこにいのちがある

から

講師：片岡輝美さん (会津放射能情

報センター)

なお、概要・報告は『九州教区通信』

324号ををご覧ください。

〔印刷物の刊行〕

『しんさいかわらばん』8号を発行

また、2017年3月12日の主日礼

拝にあわせ、「東日本大震災『6年』

を覚えてのリタニ」を作成。

◆2016年度にお寄せいただいた

支援献金は、12件、総額184、

500円でした。熊本大分地震の被

災者救援や会堂再建のための募金

が始まる中、祈りをもって献金をお

寄せいただき、ありがとうございます。

した。2017年度に1、607、

449円の繰り越しとなりました。

◆今年度の報告集会を次のように

行います。東北教区の取り組みの中

から、熊本大分地震で被災したわた

したち教区のこれからの歩みのヒ

ントを得たいと願っています。

日時：11月26日(日)午後4時

場所：熊本草葉町教会

主題：東日本大震災という問い

講師：小西望さん (仙台北教会/東

北教区総会議長)

詳しくはチラシををご覧ください。

◆5月末、西岡委員が現地視察のた

め、いわき、仙台を訪問しました。

東北教区は、被災者支援センタ

ー・エマオはこの春から規模を縮小

しつつも、「仮設の最後まで」を合

言葉に被災者支援を続けています。

また、放射能問題対策支援室「い

ずみ」は、最低でも2022年3月

までは活動を続けるとして新たな体

制で出発しています。特に、宮城県

内を巡回実施していることのため

の甲状腺検査に力を注いでいます。

また、親子短期保養プログラムを続

けておられます。九州教区も201

6年3月、「いずみ」と協力して保

養プログラムを奄美で行いました。

次年度以降第二弾を行うことができ

るよう準備したいと願っています。

東北教区は「東日本大震災救援を

続けるための全国募金」を行ってい

ますので、是非ご協力ください。

郵便振替口座番号：022205137681

加入者名：日本基督教団東北教区

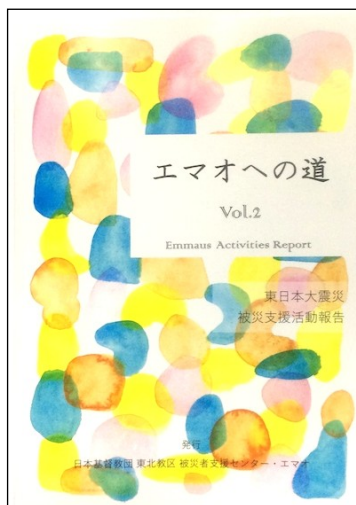
(なお、送金される場合は「A 会

堂・牧師館再建復興貸付金返済のた

めに」と「B エマオ・いずみの働

きのために」の別を明記

ください。)



「エマオ」のこれまでの働きをまとめた『エマオへの道 Vol.2』を100冊取り寄せました。教区事務所で取り扱っていますので是非お求めください。1冊300円。